

学校評価書 2016年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

本校教育の根幹となる建学の精神を今まで以上に前面に押し出し、本校ならではの人間教育と学力の向上を実現する。

2. 自己評価

評価点は、A(十分に効果があった)・B(効果があった)・C(少し効果があった)・D(効果がなかった)

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
建学の精神に基づく人間教育	ま 生徒は、聖書 讃美歌に親しみ、キリスト教の理解が深まっている	<p>毎朝の礼拝で聖書を朗読し、讃美歌を歌い、祈りを体験させて理解を深める。</p> <p>牧師やクリスチャンの教職員のお話を通して、キリスト教の理解を深める。特別礼拝では、学園外の講師を招き、キリスト教に基づいた活動の実践等について聴く。</p> <p>受難週・イースター礼拝を設定し、理解を深める。</p> <p>朗読礼拝で旧約聖書と新約聖書の有名な物語に親しむ。</p> <p>生徒が讃美歌を歌うための工夫、生徒・教職員が親しむ聖句の数を増やす工夫をする。</p> <p>中学校礼拝では、福音書を通読しキリストの生涯について学ぶ。また、宗教委員が前に立ち、讃美歌練習を行う。</p>	A	<p>教員や理事長、専務理事、遠州栄光教会教職者等の協力のもと、中高共に朝の礼拝をまもり、聖書の言葉や教員のメッセージから落ち着いた一日の始まりを守ることが出来た。</p> <p>朗読礼拝は放送部の朗読により、サムエル記から列王記、エステル記と読み進めることができた。</p> <p>今年度も4月第三週月曜日をイースターの礼拝と設定し、礼拝をまとった。</p> <p>繰り返し福音書を通読することで、聖書への親しみが増した。委員の工夫により楽しく讃美歌練習ができた。</p>	A	<p>キリスト教主義の学校にふさわしく、優しい生徒、礼儀正しい生徒が順調に育っている。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	る 生徒は、建学の精神を理解している	<p>毎日の礼拝や特別礼拝で「聖隷」についての話聞き、聖隷や学園の歴史を学ぶ。</p> <p>教職員、生徒全体が伝統的に続いている宗教行事に楽しみながら関することで、その根底にある精神を学ぶ。</p>	B	<p>花の日礼拝、アドベントクランツ、クリスマスツリーの飾りづくり、クリスマス礼拝のページェント等、生徒が関わり、準備することが本校の良い伝統として生徒の間で共有されている。</p> <p>クリスマス礼拝とイースター礼拝をさらに充実していきたい。</p>	A	<p>花の日礼拝の日の近隣施設への花束の贈呈や労作の施設訪問などを通じて良い伝統が培われている。</p>
確かな進路実現	確かな進路実現のための進路指導ができています	<p>初期指導の徹底に加え、朝学・夕学等の活用により生徒の家庭学習を定着させる。</p> <p>拡大模試分析会等により、過去の受験指導、学習指導の成功例の情報を共有し、活用する。</p> <p>生徒の希望を考慮しつつ、より高いレベルに到達するよう受験校指導を行う。</p> <p>生徒が自己理解できるよう各種模試・各種診断テスト・定期テスト等を基に継続的に2者面談を行う。</p> <p>中高6ヶ年・高校3ヶ年のキャリアデザイン教育に基づいた進路行事を実施する。</p>	B	<p>担任の丁寧な面談や各種行事によって進路指導は円滑に進められているが、家庭学習時間を延ばすことに苦戦している。生徒が自分の課題を把握し、そのために何をすべきか、より具体的に指導できる体制となるよう、面談シートのチェック、指導例の紹介等、内容の充実を図る。</p> <p>また、家庭学習時間の増加のため各クラスの教科担当者は宿題をこまめに出してほしい。</p> <p>キャリアデザインについては、新プランを機に、より一層の工夫が必要である。</p>	B	<p>家庭学習時間をもう少し確保するためにより一層面談などを活用していきたい。</p> <p>教員研修をさらに深めていきたい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
授業力指導力の向上	教員の授業力や指導力が向上している	<p>シラバスを利用した初期指導及び仕切り直し指導の振り返りの機会を設け、意識化と改善を図ると共にシラバス冊子内の計画表等をLHRや面談でも活用するように促す。</p> <p>学期ごとのシラバス活用状況の確認と年間学習計画(進度表)の定点チェックを通し履修内容の確保を期する。</p> <p>授業ルールが見える形にし、生徒にその意義と内容を徹底、習慣化させる。</p> <p>クロスカリキュラム、アクティブラーニング、ICT、グローバルイゼーション等を具現する教育の研究を進める。</p> <p>中教審やICTに関わる情報、及び新課程入試の動向を把握し、校内に発信をする。</p>	B	<p>シラバスを利用した初期指導や仕切り直し指導、授業進度の確保等の意識化及び実践については浸透しているものの一定レベルの指導の継続には苦戦している部分ある。シラバスを個人指導で活用することについてはまだ十分とはいえない。今後、クラスグループごとの指導目標の具体化と再確認及び指導方法の工夫を、(特に進学クラスでは)教科を中心に据えつつも教科と学年の枠を超えて有機的に進めていくことが必要だと考える。中教審の教育改革の骨子については研修会や教科会を通して理解を深めることができていると思われるが、今後、主体的な学び、対話的な学び、深い学びへの転換と生徒にしっかりとした学力を身につけさせるべく、その工夫と実践が求められる。企画研修部と協力して一層の推進を図っていきたい。</p>	B	<p>授業参観を通じてみると、生徒は良く授業に取り組んでおり、先生方の努力がうかがえる。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	教員の授業力や指導力が向上している	<p>2019 年度(新中 1)から導入予定の新大学入試、さらに2017 年告示、2022 年度実施の高校新学習指導要領に対応した学力育成について研修を深める。</p> <p>生徒の授業アンケートを年 2 回実施し、授業改善に役立てる。</p> <p>放課後の学習支援体制の充実を図る。特に学力上位層に対するプログラム「チームサミット」をさらに充実をさせるため、コーチ役の教員、教科担当関係教員と共に連携して学習支援を行う。同時に次年度本格運用開始のセミナーハウスの活用計画を作成する。</p>	B	<p>職員会議にて新学習指導要領の考え方やその具体的な変更点についてガイダンスを行った。情報収集も継続している。新テスト対応の模試も中学で実施した。</p> <p>授業アンケートは、1 学期と 2 学期に実施し、そこから得られた評価を全体で共有した。</p> <p>チームサミットという形の上位者指導だけでなく、高 3 の国公立志望者全般について個別指導を行った。セミナーハウスについては、日常的に放課後の自習場所としての利用と宿泊研修をおこなった。</p> <p>パソコン室と並び、多目的教室にタブレットが導入され、探求型学習のためのハード面の基盤整備が進んだ。次年度、テーマ探求型学習が拡充される見込みである。</p>	B	<p>授業評価の問題点について教科会等先生方の会議の中で取り挙げていただき、改善を進めていただきたい。</p> <p>多目的教室の AV 機器導入等、ハード面の基盤整備が進んだのはよいことである。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
生徒指導の充実	全教員による一致した生徒指導のもと、生徒は外見内面ともにけじめのある誠実な生活をおくっている。	<p>報・連・相をもとに、早期発見、早期対応、情報の共有を行い、問題行動数を抑える。ネットパトロールを継続し、その情報を指導と問題予防に生かす。</p> <p>学校周辺の道路・十字路・横断歩道の安全対策を進める。</p> <p>隔月で自転車安全指導カード情報を確認し、個別指導を行い事故防止に努める。</p> <p>頭髪・服装などけじめに欠ける生徒への指導を早く、丁寧に行い、保護者・地域から信頼を得ることの出来る生徒を育てる。</p>	B	<p>問題数は減少しているが、ネットが原因の問題等はある、生徒の問題の現れ方・質が変化してきている。変化や多様な生徒に対応するため、教員の生徒指導力・生徒理解向上により、予防的な指導を目指す必要がある。</p> <p>交通安全については、赤色TSマーク導入により自転車整備が定着してきた。</p> <p>左側通行は定着してきたが、交通事故は発生しており、今後は通学路の危険個所をマップ化する取り組みを行っていく。</p> <p>服装・髪型指導については、定期的に確認・指導を行い、けじめのある服装を意識できるように指導した。男子ソックスについてはルールの見直しを行った。</p>	B	<p>ネットによる問題等対応が難しい問題についても丁寧に対応している。登下校時の生徒の安全のため、交通ルール順守の呼びかけと、交通マナーの一層の向上に努めていただきたい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
保健医療福祉分野への進学希望者の育成	「人間の尊厳」など、「人」に関する基本を学ぶ 保健医療福祉分野における専門職の役割を理解し、「生命」や	<p>専門職の役割を理解することにより、自分の目指す進路に対する意識を高く持たせる。</p> <p>様々な学びを通して「生命」や「人間の尊厳」など、「人」に関する基本的な考え方を学ばせる。</p> <p>大学で聖隷クリストファー大学の教員から講義を受けることにより、大学を身近に感じ、各学科の特徴や社会との関わりについて知り、高い職業観をもたせる。</p> <p>聖隷三方原病院・看護協会主催の看護体験・リハビリ体験等に参加させる。</p> <p>講義はできるだけ参加型のワークや仲間とのやりとりを盛りこみ、毎回の講義や体験のあとにレポートを書かせることで、講義内容や自分の考えを要約し、的確に表現する力をつける。</p> <p>各自でテーマを決めて学習成果をまとめ、意見交換のグループワークを行う。</p>	A	<p>今年度は昨年度を大幅に上回る生徒が聖隷プロジェクトへの参加を希望した。高校1年生の入学時における進路への意識が高かったことと、大学の先生方にご協力をいただき、生徒のニーズにあった授業内容に変更していただいたという2点が大きな要因として考えられる。</p> <p>ただし、人の生命に関わる仕事に関わるという点では意識の低い生徒もあり、意識改革が課題となる。</p> <p>については本年度より、高校2年生全員に各自で決めたテーマに沿った調べ学習を課し、最終回でプレゼンを行う予定である。また、新しい試みとして併設校を目指す生徒を中心に秋頃より勉強合宿を行い、受験生としての自覚を持たせる良い機会となった。</p>	A	併設校である聖隷クリストファー大学に多くの卒業生を送り出しているのは大変に良い傾向であり、更なる進路実現に努めていただきたい。

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
中高一貫教育の推進	をめざす 生活姿勢と学習姿勢を整えさせ、学力の向上	<p>家庭での過ごし方や時間の使い方について保護者に呼びかけ、家庭と学校が一致協力して生活 = 学習訓練をすすめる。</p> <p>宿題・課題について担任と教科担当者の連携、教科委員による提出指導を徹底する。</p> <p>学校生活において、各場面でけじめの訓練をする (ルール・原則を確認して守らせる)。</p>	B	<p>課題の取り組みや携帯電話の使い方など、保護者と連絡を取りながら、生徒に指導することができている。</p> <p>担任と教科担当が協力をして、課題提出の徹底指導を行っている。未提出が続いている生徒へは、働きかけや面談を通して改善を促している。また、長期休み後に、課題未提出者を集め、居残りをさせて指導することができた。少しずつではあるが実効が上がっている。</p> <p>「1分前着席」「挨拶の励行」「学校のルール」を守らせることを徹底する必要がある。</p>	B	<p>年々指導態勢が整理されていく様子がうかがえる。</p> <p>課題指導の充実についても引き続き生徒への働きかけをしてほしい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
中高一貫教育の推進	聖隷クリストファー中学の特色を確認し、創造し発信する	<p>聖隷の精神や特色を学び＝教え、日頃の場面指導や行事内容に、それらを反映させる。</p> <p>各行事の目的・意義についての検討を継続し、事前準備・事後指導を充実させるとともに、生徒の手で作り上げる行事の指導を行う。</p> <p>グローバル教育の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の世界を視野において「自分のように隣人を愛する」ことを意識させる。 ・本校の英語教育について、総合的に計画する。 <p>成績上位者を伸ばす方策～6年間一貫教育が実質的に実現していくための取り組みをして、英数科への進学者を増やす。</p>	B	<p>中学入学後にオリエンテーションの一環で聖隷資料館の見学、文化祭 HR 展でのキリスト教や聖隷に関する調べ学習の発表、年度末に聖隷の施設で体験学習をする聖隷探検隊を実施、2年生の文化祭では聖隷探検隊の内容を発表する流れが定着した。</p> <p>生徒会執行部、専門委員会が企画立案した行事が行われた。</p> <p>1・2年生は ARI の留学生と日本の遊びを通して交流、1年生は楽器博物館研修を通してアジア・アフリカの文化や音楽に触れ、2年生は AHI 研修を通してアジア諸国のいろいろな文化や価値観に触れ、3年生は夏のイングリッシュキャンプで実践的な英会話を学び、ニュージーランド研修旅行ではホームステイを通して英語でコミュニケーションが取れる喜びを体験した。</p> <p>5教科については、夏・冬の講座、年3回の模試のプログラム、長期休み後の課題テストを実施している。</p> <p>夏冬の講座で理科社会を重点的に行うことによって時間数不足を解消している。</p> <p>中学3年生、夏2学期以降の5教科総復習のプログラムが定着しつつある。</p> <p>学力上位層には、特別な課題補習を行い（数学）、さらに伸ばしていく取り組みをしている。学力下位層には、定期テストごとに追試補習を行い、学力の底上げに努めている。</p> <p>模擬試験のデータからみても、国数英の3教科の指導の成果が、良い結果として表れ始めた。</p>	B	<p>グローバル教育において生徒が着実に力を付けるプログラムが進められている。</p> <p>学力も少しずつ伸びており、上位層の成長が大きくなってきている。</p>